

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102604		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム宇都宮		
所在地	栃木県宇都宮市平出町377-1	電話:	028-689-6600
自己評価作成日	平成29年 7月17日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月22日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成29年12月 5日	評価確定(合意)日	平成29年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自治会に加入し、祭りや行事に参加させていただき地域の方と交流を図っている。また、消防訓練にも参加していただいている。 1日の日課は決めておらず、ご利用者の生活習慣・ペースに合わせて「自分らしく」「家庭的な生活」が送れるよう支援しています。 併設病院とは医療連携をとっており、週に1度看護師による定期訪問を行いご利用者の健康管理を行っています。24時間体制での対応も可能。ほか、併設の老健とも協力体制が出来ている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (2階ユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (2階ユニット)	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りや、理念を掲げているものをリビング、事務所に張り出しをし職員一同確認をしており、周知しながら、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加をしたり、飲食店または出前などの活用を図り、地域の方との関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の人との交流時に、認知症に対する理解や支援等を伝えることにより協力できることはないかその都度検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催日を平日、休日と交互に行っている。年間行事計画書をお渡しし、一人でも多くの参加、意見交換ができるように配慮している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更申請時、苦情などの解決困難等事例があったときには、宇都宮市役所内の窓口相談助言をいただき協力体制の構築に努めている。事故発生時には速やかに報告を行い適切な対応が行えるよう助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回、全職員が必須の研修を受け、正しい理解を図っており基本は施錠せず、対応しているが日々のケアの中で著しく支障をきたす場合や危険が伴うときには、時間を決めケアプランを作成したうえでご家族の同意をいただいていることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したうえで、自尊心を傷つけないような言葉使いやケアの仕方について、ホーム会議やカンファレンスなどで職員間の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した際には、各フロアーに資料の配布をしたり、またホーム会議では伝達研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書などの書類の説明を行っている。同意書にサインをいただき不明な点があった場合にはその都度ご家庭が不安の無いように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ごとに、担当の職員を決め、信頼関係が築けるように努めている。家族の面会時には様子等をお伝えしており、また玄関にはご意見箱を設置し、意見を頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やカンファレンスにおいて意見の交換や提案が出来るようにしている。フロアーごとではなくても常に職員間の意見交換ができる雰囲気を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間は法人の規定により決められている。1日の業務内容の改善に努め、勤務状況や勤務内容の改善にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加し、スキルアップに努めている。ホーム会議内における、年間研修とし議題、伝達を職員自身が考え、司会の進行、資料作りを行い実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の平石地区防災ネットワークを通じて施設に協定を結んでいる。防災訓練への参加、ネットワーク構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の様子を常に観察し、表情変化などを見逃さず、直ちに対応ができるように配慮している。個別ケアとして、担当職員または職員が外出、買い物など良い関係が作れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの段階からご家族の話を傾聴し、入居後も話しやすい環境を作っている。些細な事でも対応ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状態に合わせた、サービスの活用が出来るように、担当ケアマネージャーや併設の施設職員と連携を図り、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯もの干しやたたみ、野菜の栽培、食事やおやつ作り、季節ごとの飾りつけなどを職員とともに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時または、電話等でホームでの様子をお伝えしている。運営推進会議でも行事の案内、参加等声掛けし、ご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時には、お好きな場所でお茶を飲みながら、談笑されている。ご家族にも協力をいただき、外食、外泊などを勧めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティ等を通じ、ご利用者が交流できるように、席替えを行ったり、職員と一緒に気の合うご利用者同士で外出が出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居されたご利用者へは、ご家族の了承をいただきご利用者と施設や病院へ一緒に伺うことがある。必要に応じてご家族と連携を取りフォローに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりに担当者がおり、ホームで生活を送るうえでの希望や要望を伺い、カンファレンスで共有しケアプランへ反映させている。また、個別ケアの実施により信頼関係の構築に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者やご家族から情報収集、また同意を得たうえでの他サービス事業者の担当ケアマネジャーからも情報を収集を行っている。ご家族の面会時に確認し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定、排泄、食事、水分摂取状態を把握し体調管理に努めている。体操はご利用者全員に参加して頂いている。その日の体調をに合わせながら、お一人おひとりのペースですごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用、ご家族から希望や要望を伺いカンファレンスで共有し介護計画の作成を行っている。作成した介護計画は、ご家族、職員でサービス担当者会議を開催し、説明承諾を得ている。ご利用者に変化があった時には、随時見直し、計画の変更を行い家族へ説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用の日々の様子、ケアの実践など個別記録に記入し、その記録にもとづいてカンファレンスを行い、ケアの方法や介護計画の見直しを図りケア統一の実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院受診や週1回の定期訪問による医療相談、週2回の通所リハビリテーションでのリハビリを通じて、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士等と連携しご利用の状態を把握し共有している。法人内で必要に応じた介護サービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、運営推進会議や回覧板、地域行事への参加を通して地域との交流が深められるようにしている。平石地区の地域行事へ積極的に参加したり、地元中学校の体験学習の受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけ医を決めている。受診については、基本家族の協力を得て対応している。状態の変化があった時には、職員も同行している。月1度の併設病院からの往診や、週1回の看護師による定期訪問があり医療ケアを受けることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師による週1回の定期訪問にて医療相談を行っている。ご利用者の急変時等、変化があった際には、24時間体制で併設病院で対応できるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の早期退院に向けて、医療関係者と相談、話し合いをしている。また、ご家族とも連絡を密にし他院転院等の不安を軽減できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の現在の様子や重度化した場合の対応については話し合いをしている。ご本人、ご家族の希望を伺いながら、主治医や看護師との連携を取り施設でできることを行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に宇都宮シルバーの研修会に「参加し、急変時の対応、応急手当の訓練を受けており、マニュアル化されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施しており、毎月10日に施設内の防火自主点検を行っている。法人内3施設合同防災訓練も実施している。また平石地区防災ネットワークの方々も参加し地域との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの考えと意見を尊重し受容する姿勢を取り、自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。応身内ではプライバシー保護、秘密保持の必須研修を受け徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意見を尊重し、希望を把握できるよう支援している。ご家族と信頼関係を築き、情報を得一人ひとりにあった生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定は、ご利用者の気分や体調に合わせている。希望や要望を尊重し、職員間で連携し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着、好みのある衣類、日用品、化粧品等が使用できるようにしている。毎月1度、理容師、美容師がホームに来所しカットをしたり、場合によってはシルバーホームに移動専門美容車のカラーのサービスが受けられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や出前、外食では、ご利用者の好きなものを選んで頂いている。ホームで育てた、野菜や季節の食材を使用し食事作り、後片付けなどできる範囲でお手伝いをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した、メニューを使用し調理を行っている。温度版に摂取量を記入し変化があった場合には、併設の病院の看護師に相談したり、職員間でも話し合いをしご利用者に合った方法で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後には、歯磨きの声掛けを実施している。義歯を使用している、ご利用者には専用の洗浄剤の対応している。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守り、誘導等を個人に合った対応をしている。場合によっては、時間を見ての声掛けを図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いものを取り入れたり、水分摂っていただくよう促している。また個人に合わせ刻みや柔らかくしたりとさまざまな取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の気分や、体調に合わせて無理のないように入浴を行っている。また、入浴剤や菖蒲、ゆずを入れての入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は、使い慣れた馴染みの物を用意して頂きゆっくり休んでいただいている。一日を通じてメリハリのある生活を目指し、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、薬剤情報提供書を職員全員で共有し服薬の管理を行っている。状態の変化が見られた際には、医師、看護師に報告し指示を仰いで対処している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技や、好きな事を把握し無理のないよう日常生活に取り入れている。お茶入れ、ごみ捨て、調理等、一人ひとりの身体状態、力に合わせた役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調や天気に合わせて散歩や外気浴の時間を設けられるよう努めている。希望に沿って少人数での外出、個別ケアなど実施している。ご家族の協力をいただき、一緒に出かけるなどの協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	外部評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が、支払い出来るよう買い物は立替え請求をしている。お金は、ご本人の希望がある場合、ご家族と相談の上所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、施設の電話を使用してお話をしたり、手紙の取り次も職員が間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がゆったり寛げるよう、木目調のリビングに自然の光を入れている。周りの壁には、行事の写真、手作りの作品などを掲示している。緑の草花を添えて、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣同士で話をしたり、一人でテレビを観たり、新聞や本を読んだり、ゆったりと過ごせるようにソファー席とテーブル席を設けた共用空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい居室になるよう長年家庭で愛用していた手作りの作品、家族の写真、なかにはご主人や息子様の位牌などを持ち込まれている。居室は、担当の職員と一緒に整理整頓をしてその人の好みに合わせて配置を変え居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレや浴室には、分かりやすい目印を付けている。手作りカレンダーに掲示し今日の日付が分かるようにしている。		